

## 高温・少雨に対する農作物栽培の技術対策について

(静岡県農業戦略課)

## 1 令和2年8月前半の平均気温の平年差と降水量、日照時間の平年比

地点	期間(8月)	平均気温(°C)	降水量(%)	日照時間(%)	高温と少雨が特に影響を与える作目
三島	1日～5日	+0.5	0	136	施設園芸、水稻、茶、露地野菜、柑橘、落葉果樹
	6日～10日	+2.3	0	115	
	11日～15日	+3.9	0	172	
静岡	1日～5日	+0.0	25	119	施設園芸、水稻、茶、露地野菜、柑橘、落葉果樹
	6日～10日	+2.8	0	154	
	11日～15日	+3.6	0	182	
浜松	1日～5日	+0.3	0	143	施設園芸、水稻、茶、露地野菜・露地きく、柑橘、落葉果樹
	6日～10日	+1.4	0	156	
	11日～15日	+4.1	0	178	

\*) 気象データは気象庁アメダスより

## 2 農作物等への影響と技術対策

作目	想定される影響	技術対策
施設園芸 (全般)	高温により ・発芽不良 ・苗活着不良 ・雌花着生不良 ・開花遅延 ・果実の品質不良 ・害虫の多発	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設内の気温、地温、葉温の上昇抑制を図るため、遮光資材を活用する。</li> <li>循環扇を導入し、施設内の空気を攪拌することで局所的に高温の空気が滞留するのを防ぐ。</li> <li>窓や出入り口などの開口部はできるだけ大きく開け換気を十分に行う。</li> <li>高温乾燥時に発生しやすいアザミウマ類・ハダニ類などは早期防除を徹底する。</li> </ul>
水稻	高温・乾燥により ・白未熟粒の発生 ・胴割粒の発生 ・登熟期間の短縮	<ul style="list-style-type: none"> <li>乾いている水田は用水管理者と調整の上、早急に入水し、水を切らさないようにする。</li> <li>出穂以降は間断かん水を行い、高温・高夜温による稲体の消耗を防ぐ。</li> <li>早期の落水は行わない。</li> <li>帯緑籾歩合や立毛中の籾水分を確認し、適期の刈り取りを行う。</li> </ul>
茶	高温・少雨により ・成木園：生育不良 ・幼木園：枯死 ・害虫の発生	<ul style="list-style-type: none"> <li>茶樹が1日に必要な水量は4 t/10aである。</li> <li>スプリンクラーかん水の場合、晴天が7日続いた時のかん水量は25～30t/10a(赤黄色土)である。かん水間隔が7日未満の場合は、茶樹が1日に必要な水量を参考に用水管理者と調整の上、かん水量を調節する。かん水チューブの場合は、かん水量を少なくできる。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポンプ等を使って手でかん水する場合は、十分な水量を供給できないので、可能な範囲内の量を根元付近に直接かん水する。</li> <li>・幼木園では根が浅く干ばつに弱いため、早めにかん水を開始する。</li> <li>・また、幼木園では土壌水分の蒸発を防ぐために、茶園に敷草をすることも効果的である。</li> <li>・ヨコバイ、アザミウマ、カンザワハダニなどが発生しやすいので適正防除に努める。</li> </ul>
露地野菜	高温・少雨により <ul style="list-style-type: none"> <li>・だいこん：発芽不良</li> <li>・キヌサヤエンドウ： //</li> <li>・はくさい：定植苗の活着不良</li> <li>・キャベツ： //</li> <li>・ブロッコリー： //</li> <li>・カリフラワー： //</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・は種後には十分にかん水を行う。</li> <li>・植え付け前に十分かん水しておくとともに、植え付け後は直ちに株元に十分なかん水を行う。</li> <li>・マルチや敷きわらを厚くして地表面からの水分蒸散を抑える。</li> </ul>
露地きく	高温・少雨により <ul style="list-style-type: none"> <li>・品質低下</li> <li>・生育遅延</li> <li>・害虫の発生</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・敷きわらを厚くして地表面からの水分蒸散を抑える。</li> <li>・老化した不要な下葉やわき芽を早めに除去する。</li> <li>・高温乾燥時に発生しやすいアザミウマ類・ハダニ類などは早期防除を徹底する。</li> </ul>
柑橘	高温・少雨により <ul style="list-style-type: none"> <li>・果実肥大の不良</li> <li>・落葉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・敷きわら、敷き草等により、土壌水分の蒸散を防ぐ。</li> <li>・葉がしおれた場合、用水管理者と調整の上、10a 当たり 20t を目安にかん水する。</li> <li>・果実の日焼け防止対策（白サンテ袋がけ）を講じる</li> </ul>
落葉果樹	高温・少雨により <ul style="list-style-type: none"> <li>・キウイフルーツ、かき、いちじくの落葉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・敷きわら、敷き草により、土壌水分の蒸散を防ぐ。</li> <li>・葉がしおれた場合、用水管理者と調整の上、10a 当たり 20t を目安にかん水する。</li> </ul>
飼料作物	高温・少雨により <ul style="list-style-type: none"> <li>・採草地牧草の再生不良</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かんがい施設がある場合は用水管理者と調整の上、かん水を行う。</li> <li>・再生が期待できない場合は、早めに収穫もしくはすき込みし、次の作付に備える。</li> </ul>

### 3 その他

今後1～2週間は気温がかなり高めに推移することが予想されていることから、作業時には熱中症対策に十分留意する。